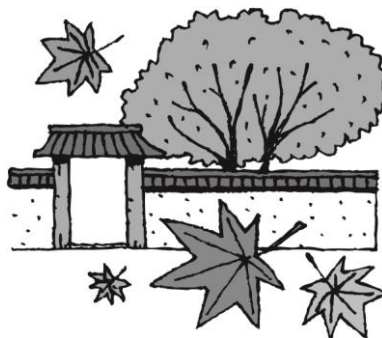


どのような心持ちか



え・小島サエキチ

映 俳優の高倉健さんが、今年十月十日に亡くなりました。八十三歳でした。

高倉さんは、半世紀以上に亘り映画俳優として活躍。『網走番外地』『シリーズや』『日本任客伝』『シリーズ』『幸福の黄色いハンカチ』など、日本映画史に残る数々の作品に出演し、第一回日本アカデミー賞の最優秀主演男優賞をはじめ、多くの映画賞を受賞。二〇〇六年度文化功労者、二〇一三年には文化勲章を受章しました。

「最後の映画スター」として多くの人々から慕われ、敬意を払われた八十三年間の生涯でした。

高倉さんは、一度決めたことを終始一貫やり続ける人でもありません。健康管理のための筋力トレーニングや血糖値の測定は毎日欠かさず行なっていたそうです。「撮影現場での休憩中は椅子に腰掛けない」という逸話も残っています。

また、映画『八甲田山』の撮影の際に禁煙を決意して以来、一日に八十本吸っていた煙草もびたと止めました。そうした厳しい姿

勢は「自分がこの仕事に就いたときからのプライドであり、自らに課したこと」と、高倉さんは生前語っておられます。

倫理実践においても、「一つのことをやり続ける」というのは、成功への大切な要諦です。しかし、「実践」を続けていくうちに、いつの間にか「習慣」になり、成長や変化が乏しくなることがあります。倫理実践は、続けることに加えて「どのような心持ちで取り組んでいるか」に注意を払うことも大切なのです。

仕事の都合で毎朝四時に起きている人がいます。(今日も気持ちよく目が覚めて、一日分のいのちをいただけた。このいのちを世の為人の為にしっかりと働かせるぞ)と前向きに起きている人もいれば、(もう朝が来てしまった。毎日四時起きで、なかなか疲れが取れない)と心の中で嘆きながら目覚める人もいます。

行為としては、同じ早起きですが、どのような気持ちで起きているかによって、その行為が「実践」

なのか「習慣」なのか違いが出てきます。当然、その日一日の過ごし方も違ってくるでしょう。

やり始めはつらい実践も、数カ月も実行すれば自然と身につくものです。ただし、何も考えずに実行できる「習慣」になってしまうと、その行為から心が離れ、もはや「実践」とは呼べなくなるのです。そして、怠け心が顔を出し、いつの間にか行為そのものをやめしてしまうことにつながります。

(今、自分はどうな気持ちで実践しているのだろう)と常に自分に問い続け、心の伴った「実践」を続けてまいりましょう。

さて、本紙「今週の倫理」は、会員の皆様のご愛読のお陰で、今号で九〇〇号を迎えることができました。一九九七年九月の第一号発行から一七年、九百週間休むことなく身近な倫理実践を発信し続けてきました。

今後もマンネリに陥らずに、皆様に喜んでいただける紙面づくりに心を込めて、週に一回の発信を続けてまいります。